



新潟大学
旭町
学術資料
展示館
Niigata University
Asahimachi Museum

あさひまち

新潟大学旭町学術資料展示館 ニュースレター 第21号 2023年12月 ISSN 2185-7431

光の差し込む展示館に

新潟大学旭町学術資料展示館 館長 丹治 嘉彦

この春「エンドロールのつづき」というインド映画を観る機会がありました。主人公であるインドのチャイ売りの少年が映画に魅了され、故郷を離れやがて世界で活躍する映画監督になるという設定の映画です。少年は映画表現のみならずとなつて「光」をモチーフとして映画作りに挑戦し、映画の世界にどんどん引き込まれていきますが、変わりゆく時代の中、夢を諦めずに友人や関係する大人たちと一心不乱に進む少年の姿に胸を強く打たれました。それはある意味、映画館という装置の中での出来事が、少年に夢という希望を与えたとも言える映画でもありました。

旭町学術資料展示館において企画展や常設展に大学関係者をはじめ数多くの市民に足を運んでもらっていますが、特に子どもたちが訪れる時間はとてもワクワクするような嬉しさに変わります。彼らが展示作品等を興味深く覗く仕草や、無邪気で明るく活気のある声を聞くことは、我々展示館関係者にとって顔がほころぶ瞬間でもあります。展示館は研究機関として静寂の中での資料の提供、あるいは研究発表を行う場であることがその使命であり、それらを鑑賞する際において、寡黙で静寂な空間を提供することが必然であると考えられるのも間違いではないでしょう。しかしながら、展示室から聞こえる子どもたちの声からは、自分なりの解釈での資料の観察やその資料に対して友達と意見交換を行ったり、あるいはそれに頷いたり等の仕草が展示空間から感じることができました。これらは今までの倫理的な教訓といったものや、知識を前提とした鑑賞の形態とは一線を画しています。つまり、これらのことが新たな思考の獲得を通して人と人との相互理解に繋がり、また、

個人的な体験行為から他者を巻き込んでのやり取りによって、定まった解へ誘導する場からの解放を意味します。そして、そのことにより展示館との距離が縮まり当事者意識をもって接することが可能となります。子どものうちに何に触れるかで、またいろんな人とのやり取りを行うことでその先の人生が大きく変わっていきませんが、もちろんそれは子どもだけに留まらず、どんな年齢の人にでも当てはまることではないでしょうか。

展示館にある資料は「エンドロールのつづき」で扱った光であると思います。この光を自分なりの鑑賞の仕方でも体験することにより、普段見過ごしていたものが輝いて見えはじめ、私たちの日常生活が今まで以上に豊かになっていくと確信します。



企画展「伝統文化を継承する花街の空間」 2022年4月29日(金)～6月19日(日)

工学部 岡崎 篤行・松井 大輔

現代における花街(かがい)とは、芸妓(げいぎ)の舞などの芸をお座敷で楽しむことができる、料亭やお茶屋などの店があるエリアを意味します。明治以降、娼妓がいる遊廓とは基本的に分離されたと言われていています。花街では町並み・建築・衣装・舞踊・音楽・料理・酒など、様々な日本の伝統文化がハードからソフトまで総合的に継承されています。このような都市空間は、今となっては唯一無二の存在と言えます。

新潟大学工学部建築学プログラム都市計画研究室では、2008年から新潟市中央区の古町花街の都市空間(花街空間)に関する研究を始めました。現在は、京都や東京、北海道など全国の大学研究者と共同研究も展開しています。今回の企画展では古町花街の研究結果を中心に、一部、京都・先斗町の情報も展示しました。

さて、皆さんが「花街」と聞いて、真っ先に思い浮かべる地域はどこでしょうか。全国各地に花街はありますが、京都や金沢を思い浮かべる方が多いのではないかと思います。京都には祇園甲部・祇園東・宮川町・先斗町・上七軒という五つの花街があります。また、金沢にはひがし・にし・主計町という三つの花街があります。特に、祇園甲部の新橋地区と金沢のひがし・主計町は国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に選定され、文化財として保全の対象になっています。さらに、花街の伝統文化と歴史的な空間を観光資源として、国内外に積極的にアピールもしています。これらの花街に比べて一般的な知名度は劣るかもしれません

が、東京にも新橋・赤坂・芳町・神楽坂・浅草・向島があり、東京六花街と呼ばれています。また、大きな都市で言えば、札幌のすすきのや福岡の中洲にも、かつては多くの料亭が建ち並んでいました。今でもお座敷で芸を楽しむことができる現役の花街です。そして、私たちが住む新潟市には古町花街があります。

全国の花街を「営業形態の地域性」という視点から見ると、京都・金沢など関西近郊の花街は、料理を仕出しに頼る「お茶屋」を中心とした花街です。一方で、その他の多くの地域では料理を自前で提供する「料亭」が中心となっています。仮に、前者を茶屋型花街、後者を料亭型花街と分類すると、新潟の古町は料亭型花街に位置づけられます。そして、古町は料亭型花街の中でも、全国随一の規模を誇るという潜在的な価値を有しているのです。しかし、重伝建地区の選定事例からも分かるように、これまでは茶屋型花街の歴史的価値の評価が先行し、料亭型花街の価値評価は出遅れてきた傾向があります。古町の花街空間の価値を顕在化させることは、全国各地に存在する、地域ごとに多様な花街空間の価値の全体像を正しく次世代に継承することに繋がるのだと考えています。

以上のような思いから、これからも新しいチャレンジを続けていきたいと思っています。本企画展を通して、皆さんにも花街空間に興味を持っていただき、古町をはじめ全国の花街を応援していただければ幸いです。



企画展「戦争を考える2022 —日常に入り込んだ戦争—

2022年7月6日(水)～8月19日(金)

旭町学術資料展示館 清水 美和

本企画展は、全学教養科目「平和を考えるA」の開講に合わせて開催し、学生や市民が「戦争遺物」を観ることにより、戦争のむごたらしさ（リアリティ）を身をもって感じ、平和の大切さを学び、考えてもらうことを企図しました。

2022年2月からはじまったロシアによるウクライナへの軍事進攻の背景には厳しい情報操作・思想統制があります。かつて太平洋戦争時の日本においても軍部によりおこなわれたプロパガンダが全土を覆い、日本国民の選択肢を方向づけました。今回は主に戦争柄の遺物を通して「戦争」に盲目的となった日本国民の実態に迫ります。



7月16日(土)、展示室において感染症対策を施したうえ、定員6人の人数制限を設けギャラリートークを実施し、新潟ハイカラ文庫主宰の笹川太郎氏、企画者である新潟大学名誉教授の橋本博文氏から解説いただきました。笹川氏からは老若男女問わず日常的にも非日常の日にも戦争柄の衣類は抵抗なく着用されたと考えられるとの説明がありました。展示された戦争柄の日用品はデザイン的にも優れ、最先端の技術による兵器がモチーフになっていても血なまぐさはなくむしろ洗練された印象すらあります。子供が兵隊さんとして描かれているものは、犬や鳩などの平和的モチーフとともに可愛らしく見えるようデザインされています。現実の悲惨な戦争からかけ離れているため、意図せずともプロパガンダに協力してしまう形になるものでした。その巧みに現代に生きる者としては、ただただ恐怖を覚えます。

戦争が起こる前と戦時下の日常がどのように変化してしまうのか、当時の人々が否応なしに戦争に巻き込まれていく様子に思いを巡らせるとともに、今も世界中で終わらない戦争を自分事として常に考えていかなくてはならないように思うのです。

企画展「ジオパークの大放散虫」展

2022年7月20日(水)～8月28日(日)

大学院自然科学研究科博士前期課程2年 近藤 恭生

放散虫とは何か、ご存知ですか。放散虫は、ガラス質の美しい殻を作るプランクトンで、約5億年前の海から存在し、現在も世界中の海を漂っています。2022年7月20日から8月28日まで、旭町学術資料展示館1階で開催した「ジオパークの大放散虫」展では、放散虫化石の研究手法、放散虫分類ゲーム、ジオパークの放散虫研究、放散虫化石の立体模型の4つのテーマから、放散虫の不思議な魅力に迫りました。

放散虫化石の研究手法では、実際に研究で使用する道具や研究で得られたサンプルなどをパネルとともに紹介しました。中でも、放散虫化石を拾い上げる作業については、その作業の細かさに驚きの声を多くいただきました。

放散虫の分類ゲームでは、放散虫化石トランプを参考に、お渡ししたカードの放散虫化石の分類に挑戦していただきました。殻のどの部分を比べ分類するのか、参加者の皆様から様々な考えが寄せられ、大変有意義なコーナーとなりました。

ジオパークの放散虫研究では、糸魚川・佐渡ジオパークで新潟大学が行った放散虫研究を紹介しました。糸魚川で見つかった約4億2千万年前の放散虫化

石から、佐渡で報告されている現在の放散虫まで、その種の多様さには目を見張るものがあります。

放散虫化石の立体模型は、写真とは異なり、殻の内部構造などを詳しく見ることができ、放散虫の殻の理解に役立ちます。今回、フォッサマグナムミュージアム、佐渡ジオパーク、苗場山麓ジオパークなどと連携して開催したスタンプラリーの記念品として、本企画展の会場では、放散虫化石の立体模型をプレゼントしました。本企画展だけでなく、ご自宅でも、立体模型を手にとって、放散虫の殻の不思議に触れていただけたら幸いです。



企画展「原画から見る1980年代TVアニメ」 2022年9月7日(水)～11月4日(金)

アジア連携研究センター長、アニメ・アーカイブ研究チーム共同代表 石田 美紀

アニメの制作過程からは多種多様の素材(脚本、絵コンテ、原画、セル画、各種設定、アフレコ台本など)が生まれます。新潟大学アニメ・アーカイブ研究チームがアニメ中間素材と呼ぶ、そうした素材群は、アニメ制作の実態を如実に示す貴重な資料です。しかし、残念なことにその多くが廃棄され、散逸してきました。

同展示会は、廃棄と散逸の危機を奇跡的に生き抜いた『夢戦士ウイングマン』(東映動画、1984年から85年放送)第12話の原画、修正原画、絵コンテ、タイムシートの現物とともに、これらを用いた映像作家・五島一浩氏の新作インスタレーション「Peel-Apart TV Anime」によって、80年代のアニメ中間素材を現代のメディア環境に甦らせ、アニメの仕組みを分かりやすく伝えることを目指しました。

『夢戦士ウイングマン』の原画は、日本のアニメが飛躍的に発展した1970年代半ばから国際



的な評価を得た90年代半ばまで、制作現場で活躍された渡部英雄氏が長年大切に保管されてきたアニメ中間素材群「渡部コレクション」の一部です。原画の一点一点に見られる書き込みや指示、修正原画に見られる作画監督による修正からは、徹底した分業制における個々のクリエイターの領分とともに、クリエイター間の意思疎通が繊細に行われていたことが見て取れます。多くのクリエイターによる膨大な仕事があつてこそ、紙に描かれた絵は生き生きと動くのです。本展でアニメ中間資料が提示したセル・アニメ時代の制作現場の姿は、デジタルによるアニメ制作に移行している現在、ますます貴重なものになっています。

同展示会は、研究者が一から企画運営するという点で、アニメの展示会としては極めて異例のものとなりました。また、設営・撤収から会場係まで、留学生を含む多くの学生が参加した点で、大学教育の場でもありました。そして、子どもから大人までの多くの方にご来場いただいたという点で、大学内での研究成果を社会に還元するアウトリーチの実践でもありました。アニメ・アーカイブ研究チームは、来場者・関係者の皆様から寄せられた反応から、アニメ中間素材の展示はアニメ研究を推進する力のひとつになると確信しています。

最後に、この場をお借りして、前例のない型破りな展示会の開催をお認めいただいた、東映アニメーション様、桂正和様、集英社様のご協力とご理解に厚く御礼申し上げます。

「湊にいがた 雛人形・町めぐり」連携企画 2023年2月18日(土)～3月31日(金) 企画展「めでたい形ーあさひまち展示館のひなまつりー」

旭町学術資料展示館 清水 美和

新潟市内の20会場で1月中旬から4月上旬ごろまでの期間、雛人形を展示する毎年恒例の「湊にいがた 雛人形・町めぐり」企画に参加しました。当館は今年でちょうど10回目の参加となりました。

雛人形は明治・大正・昭和の3つの時代それぞれ特色ある雛人形を見比べていただくようにしました。明治期の雛人形は、あさひまち友の会会員の坂井百合子様のご実家で受け継がれたものです。華美ではなく全体的に落ち着いた作

りのお道具類は当時のものが一式揃い、風格のある佇まいでした。新潟の豪商・田代家所蔵の大正期の段飾りや、貼交屏風は華やかで圧倒的な存在感がありました。当館所蔵の古今雛は昭和期に入るものと思われませんが、女雛はとりわけ優雅な表情をしています。

女の子の節句にちなみ、櫛や手鏡、羽織着など可愛らしい身の回りのものなども揃えました。加えて子供の無事な成長を祝い、願う全国各地の郷土玩具も賑やかに展示しました。どことな

企画展「苗場山麓ジオパーク特別展 2022年11月19日(土)～2023年1月22日(日) ―災害とひとの営み―

災害・復興科学研究所 卜部 厚志

新潟県津南町と長野県栄村地域に位置する苗場山麓ジオパークは、苗場山などの火山活動による溶岩地形や信濃川とその支流河川が作り出した河岸段丘と呼ばれる階段状の地形が広がっている特徴があります。また、この地域は約8000年前から現在のような多雪環境となり、この多雪と地質環境によって落葉広葉樹の豊かな森が形成されてきました。このような自然に共生した暮らしのなかで火焰型土器に代表される日本屈指の縄文文化が発展しました。この自然と共生した雪国文化は、現在まで受け継がれています。一方、津南町や栄村は活断層帯に位置しており、地震や土砂災害が繰り返されてきました。これらの災害の記録は、遺跡の発掘調査によってさまざまな時代の地層から見出すことができ、地域の災害の特徴や履歴を知ることができます。

本企画展では、上述のような苗場山麓ジオパークのもつ魅力を発信するとともに、遺跡調査や歴史資料に残された災害の痕跡を示し、これからの防災や未来を考えることを目的として企画いたしました。展示では、津南町のご厚意により津南町以外での展示は稀な県指定文化財沖ノ原遺跡出土火焰型土器など貴重な土器や出土遺物を多数展示することができました。来場者には、まず多彩な縄文文化を実感していただき、このような人の暮らしを展開してきた地形・地質環境や災害の履歴という「ジオ」の背景をご理解いただけたかと思えます。

また、2023年1月15日には、講演会「苗場山麓における災害とひとの営み」を開催し約50名の方に参加いただきました。講演は、苗場山麓ジオパーク推進室長の佐藤雅一氏から「遺跡調査から読み解く災害史―信濃川水系上流部と蒲原平野形成の関係―」をテーマとして、苗場山麓やその周辺の地形・地質の特徴や実際の遺跡調査から分かる災害痕跡の事例について紹介いただきました。加えて、災害・復興科学研究所の卜部厚志教授から「災害考古学から新潟地域の災害を考える」をテーマに新潟地域の断層帯付近の遺跡における災害痕跡調査の概要から予測される地震災害について話題提供がありました。講演会の後には、佐藤氏による企画展の展示解説ツアーも行われ、参加者は苗場山麓ジオパークや縄文文化などについての専門的な解説に熱心に耳を傾けていました。企画展、講演会ともに苗場山麓ジオパークの内包する多様な魅力を伝えることができました。



くユーモラスで懐かしい表情の郷土玩具に、見学者の会話も弾んでいました。

この展示に資料をご提供いただいた田代早苗

様、友の会岡元正子様、坂井百合子様はじめ友の会会員の皆様から多大なご協力をいただきましたことを、心より御礼申し上げます。



常設展示室よりー人類史展示室ー

旭町学術資料展示館 清水 美和

常設展示室では、新潟大学が所蔵する貴重な学術資料を展示しています。

今回ご紹介する2階「人類史展示室」では、医学部所蔵の古人骨標本「小片コレクション」のなかから人びとの文化や習俗などを読み解くことができる資料を選び示すとともに、人文学部考古学研究室がおこなった発掘調査などによる考古資料をあわせて展示することで、旧石器時代から現代にいたるまでの人類の実像を多面的に理解できるよう構成されています。

小片コレクションとは医学部の故・小片保教授(1916-1980)が在職中に調査・研究のため蒐集した人骨標本のコレクションで、医学部が所蔵しています。その資料数は1,800体へのぼり、縄文人骨が約400体、古墳人骨が約300体を占めており、国内有数の古人骨コレクションとなっています。



①佐渡市堂の貝塚第6号人骨

(新潟大学医学部 小片コレクション)

縄文時代中期の遺跡で、人骨は壮年～熟年期の男性と推定されます。屈葬で頭部付近に石鏃が13本、胸部にはイタチザメの歯の加工品が副葬されています。人骨のみが小片コレクションに含まれ、2021年3月には新潟県指定文化財に追加指定されました。



②火焰型土器 (当館所蔵)

長岡市石倉遺跡出土。縄文時代中期。高さは15.5cmと、火焰型土器のなかでも小型の器形です。実際にご覧になると、小さいながらも型式に則り規則的に装飾が配置されていることに驚かれると思います。



展示館が「博物館に相当する施設」に指定されました

2022年10月20日付で、旭町学術資料展示館は博物館法で規定する「博物館に相当する施設」の指定を受けました。これまで展示館は「博物館類似施設」でしたが、今回の指定により活動の維持・向上を図っていくことが求められます。今後も企画展などの活動を通じ、より一層教育・研究及び地域社会への貢献に努めてまいります。

令和4年度 活動記録

● 企画展示

| 会期 | タイトル | 展示室 | 担当 |
|----------------------------|------------------------|---------|-----------------------|
| 2022.4.29(金)～6.19(日) | 伝統文化を継承する花街の空間 | 企画展示室 | 工学部 |
| 2022.7.6(水)～8.19(金) | 戦争を考える2022ー日常に入り込んだ戦争ー | 企画展示室 | 人文学部 |
| 2022.7.20(水)～8.28(日) | 「ジオパークの大放散虫」展 | 1階常設展示室 | 理学部 |
| 2022.9.7(水)～11.4(金) | 原画から見る1980年代TVアニメ | 企画展示室 | 経済科学部/ アジア連携研究センター |
| 2022.11.19(土)～2023.1.22(日) | 苗場山麓ジオパーク特別展ー災害とひとの営みー | 企画展示室 | 災害・復興科学研究所 |
| 2023.2.18(土)～3.31(金) | めでたい形ーあさひまち展示館のひなまつりー | 企画展示室 | 教育学部 |



● サテライト・ミュージアム駅南キャンパス「ときめいと」共催展示

| 会期 | タイトル | 会場 | 主催 |
|--------------------------------|--|------------------|------------------------------|
| 2022.11.30(水)～ 2023.1.26(木) | 植物標本は語る ～新潟大学教育学部植物標本庫の歴史と収蔵コレクション～ | 駅南キャンパス ときめいと | 新潟大学植物標本庫・ 新潟大学教育学部理科教育専修 |

● フォーラム・講演会

| 開催日 | タイトル | 講師 | 会場 |
|--------------|---|--|------------------|
| 2022.6.4(土) | 講演会「開かれた博物館とは 芸術祭を切り口として」 (第18回新潟大学あさひまち友の会総会記念講演会) | 丹治 嘉彦 (旭町学術資料展示館長) | 駅南キャンパス ときめいと |
| 2022.9.10(土) | アニメ中間素材シンポジウム① 「1980年代テレビアニメを語る」 (企画展「原画から見る1980年代TVアニメ」関連イベント) | 勝間田 具治 (TVシリーズ「夢戦士ウイングマン」 シリーズディレクター) 渡部 英雄 (同シリーズ演出) 木村 智哉 (開志専門職大学アニメ・マンガ学部准教授) | 有任記念館、 Zoom |
| 2022.9.11(日) | アニメ中間素材シンポジウム② 「アニメ中間素材の創造性： 映像作家 五島一浩のメソッドを中心に」 (企画展「原画から見る1980年代TVアニメ」関連イベント) | 五島 一浩 (映像作家) 川西 由里 (鳥根県立石見美術館学芸員) 神村 幸子 (開志専門職大学アニメ・マンガ学部教授) | 有任記念館、 Zoom |
| 2023.1.15(日) | 講演会「苗場山麓における災害とひとの営み」 講演1「遺跡調査から読み解く災害ー信濃川系上流部と蒲原平野形成の関係」 講演2「災害考古学から新潟地域の災害を考える」 (企画展「苗場山麓ジオパーク特別展ー災害とひとの営みー」関連講演会) | 佐藤 雅一 (津南町教育委員会文化財班参事・ 苗場山麓ジオパーク推進室長) ト部 厚志 (新潟大学災害・復興科学研究所長) | 有任記念館、 Zoom |

● ギャラリートーク・体験教室・その他イベント

| 開催日 | タイトル | 講師 | 会場 |
|--------------|--|--|-------|
| 2022.7.16(土) | ギャラリートーク (企画展「戦争を考える2022」関連イベント) | 笹川 太郎 (新潟ハイカラ文庫主宰) 橋本 博文 (新潟大学名誉教授) | 企画展示室 |
| 2022.7.24(日) | 「おうちでミュージアム」 (「ジオパークの大放散虫」展 関連イベント) | 松岡 篤 (新潟大学理学部教授) ほか | Zoom |

● 友の会行事

| 開催日 | テーマ |
|-------------|---------------------|
| 2022.6.4(土) | 第18回新潟大学あさひまち友の会 総会 |

● 資料貸出記録

| 貸出先 | 貸出資料名 | 貸出目的 |
|--------------|---------------|---|
| 新潟市瀧東樋口記念美術館 | 長野県長野市出土朝顔形埴輪 | 「実物とアートで楽しむはにわ展」 会期：2022.11.15(水)～12.18(日) |

令和4年度 入館者数

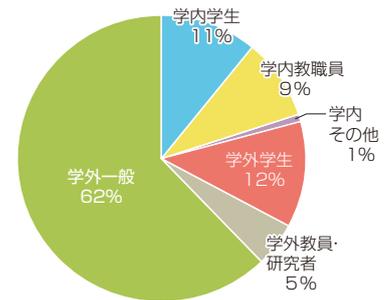
● 入館者数 (2022年4月～2023年3月)

| 月 | 学 内 | | | 学 外 | | | 計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|
| | 学 生 | 教職員 | その他 | 学 生 | 教員・研究者 | 一 般 | |
| 2022年4月 | 10 | 21 | 1 | 6 | 6 | 79 | 123 |
| 5月 | 22 | 16 | 0 | 7 | 12 | 87 | 144 |
| 6月 | 24 | 13 | 3 | 9 | 16 | 110 | 175 |
| 7月 | 87 | 24 | 7 | 28 | 17 | 186 | 349 |
| 8月 | 28 | 19 | 3 | 161 | 17 | 351 | 579 |
| 9月 | 52 | 43 | 0 | 30 | 16 | 197 | 338 |
| 10月 | 48 | 23 | 1 | 57 | 13 | 192 | 334 |
| 11月 | 17 | 26 | 0 | 29 | 11 | 120 | 203 |
| 12月 | 6 | 13 | 3 | 5 | 9 | 75 | 111 |
| 2023年1月 | 12 | 14 | 3 | 15 | 13 | 86 | 143 |
| 2月 | 11 | 19 | 0 | 1 | 9 | 111 | 151 |
| 3月 | 6 | 25 | 1 | 15 | 13 | 219 | 279 |
| 計 | 323 | 256 | 22 | 363 | 152 | 1,813 | 2,929 |

※開館日：水～日曜日の週5日間

● 団体入館者

| 日 付 | 団体名 | 人 数 |
|--------------|-----------------------|-----|
| 2022.5.29(日) | NHKカルチャー見学会「新潟近代建築紀行」 | 11名 |
| 2022.6.2(木) | えんでこ まち歩き | 19名 |
| 2022.8.17(水) | アートキャンプ新潟 | 17名 |



● 講義・実習等での活用

| 日 付 | 講義・実習名 | 人 数 |
|-----------------------|-------------------------------------|-----|
| 2022.4.23(土) | 放送大学新潟学習センター面接授業「われらの地球」 | 11名 |
| 2022.7.23(土) | 理学部「地学実験A」 | 22名 |
| 2022.9.14(水)・9.29(水) | 新潟市動く市政教室「みなとまち新潟をタイムトラベル」 | 35名 |
| 2022.9.23(金)～11.11(金) | 開志専門職大学アニメ・マンガ学部臨地実務実習「文化啓発施設運営実務Ⅱ」 | 2名 |
| 2022.10.5(水) | 経済科学部「学際日本学実習」 | 4名 |
| 2022.10.15(土) | 放送大学新潟学習センター面接授業「声からアニメを考える」 | 28名 |
| 通 年 | 「博物館実習」(見学実習) | 50名 |

新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター

あさひまち

第21号

■ ISSN 2185-7431

■ 発行年月日 2023年12月1日

■ 編集・発行 〒951-8122
新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学学術資料運営機構旭町学術資料展示館

■ 印刷 富士印刷株式会社

新潟大学
旭町
学術資料
展示館
Niigata University
Asahimachi Museum

編集後記

例年夏に開催する理学部の企画展では同時開催のスタンプラリーも好評です。小学生から年配まで幅広い世代のかたにご参加いただき、館内は普段より賑やかになります。また毎年足を運んでくれる子供たちの成長も密かな楽しみにしています。化石や岩石に目を輝かせて、展示を楽しんでいる様子に私たちスタッフも元気をもらっています。

